

～せと市民総ぐるみ防災訓練～
令和5年度瀬戸市総合防災訓練
総括

令和5年12月14日（木）

訓練報告検証会

1 訓練目的

瀬戸市

防災関係機関

市民等

参加

地震災害を想定した総合的かつ実践的な防災訓練を実施

市民の防災意識の高揚及び瀬戸市災害対策本部の体制強化を図る。

2 訓練概要

想定

南海トラフ地震発生

地域

安否確認訓練
避難所開設・運営訓練
情報伝達訓練 等

市民・地域が主体的に立案
「協働参加型」

市役所
本庁舎
等

災害対策本部運営訓練

情報ネットワーク・DX
の活用

3 訓練広報について

令和5年度瀬戸市総合防災訓練 ～せと市民総ぐるみ防災訓練～

「おうち防災訓練」に参加しよう！

日時: 11月19日(日) 午前8時から

場所: 各家庭で実施

南海トラフ地震により瀬戸市内に震度6弱の地震が発生したことを想定し、おうち(各家庭)で全市民が参加できる訓練を実施しましょう。



訓練開始の合図について (次の手段で訓練開始をお知らせします！)

- ① サイレン放送【消防署、消防分団詰所、消防車両】
- ② ラジオ放送【 ラジオサンキュー (FM84.5)】
- ③ ケーブルテレビ放送【 Green City (12ch)】
- ④ メール配信【瀬戸市安全安心情報メール】
- ⑤ LINE配信【瀬戸市安全安心情報メール (for LINE)】

【配信登録はこちら】

- ① 瀬戸市公式 LINE アカウントを友達登録
- ② 「受信設定」から、瀬戸市安全安心情報メール (for LINE) の「緊急」を選択し、回答



【配信登録はこちら】

- ① QRコードを読み込み、空メールを送信
- ② 配信カテゴリで「緊急」を選択し、登録



おうち防災訓練チラシの配布による事前周知



広報せと11月号に防災特集記事掲載

訓練開始の合図は左記の手段で実施

4 訓練に向けた事前研修

令和5年度せと市民防災塾 7月1日(土) 午前9時30分から正午まで

第1部 (講演)

講師：認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 常務理事 浦野 愛 氏
題：「できることから始めよう！避難生活に役立つ知恵袋」

第2部 (体験型講演)

講師：認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード 常務理事 浦野 愛 氏
題：「災害時に役立つ防災グッズを体験しよう」

参加者人数：314名(アンケート回答者258名)

参加者属性：自治会関係84名、一般参加36名、一般参加(学生)1名、
防災団体関係15名、市職員81名、属性不明97名

【次年度取り上げてほしいテーマ】

1位・災害時のトイレ対策(80)

2位・避難所運営の在り方(56)

3位・おうちの安全点検(耐震、家具固定等)(54)

◎ 一般参加者意見抜粋

1位・災害時の情報収集(16)

2位・避難所での食(11)

2位・おうちの安全点検(耐震、家具固定等)(11)

5 訓練指標の結果

(1) 訓練参加世帯数

年度	安否札等掲出世帯	安否確認世帯 (安否札等掲出 + 声掛け安否確認)
令和5年度	20,545世帯 (53.7%)	<u>26,406世帯</u> <u>(69.0%)</u>
令和4年度	19,594世帯 (50%)	—
令和3年度	18,997世帯 (47%)	—

※ 市内全世帯数 58,102世帯、自治会加入世帯数・・・38,259世帯 (令和5年11月1日現在)

※ パーセンテージは「自治会加入世帯数」を分母として計算

5 訓練指標の結果

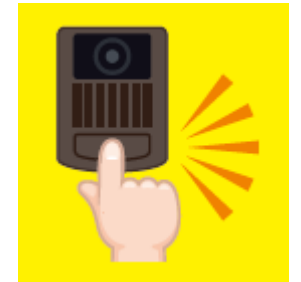
(2) 安否札等掲出率

No.	連区	安否札等掲出率
1	品野連区	75.4%
2	古瀬戸連区	66.8%
3	水野連区	63.8%
4	西陵連区	63.3%
5	本地連区	62.1%
	全連区における 最小値～最大値	32.5%～75.4% (平均53.7%)

5 訓練指標の結果

(3) 安否確認率 (安否札等掲出世帯 + 声掛け安否確認世帯)

No.	連区	安否確認率
1	古瀬戸連区	92.7%
2	八幡台連区	82.2%
2	本地連区	82.2%
4	西陵連区	80.1%
4	下品野連区	80.1%
全連区における 最小値～最大値		54.0%～92.7% (平均69.0%)



※ 上記以外で70%を超える連区が9か所ありました。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（1）安否確認訓練について（良かった点）

No.	良かった点
1	各町内の組長会議に2回説明員を派遣し、防災訓練の詳細説明を行った。その結果、安否札設置率が飛躍的に上昇した。
2	未掲出への声掛け安否確認も、ほとんどの町内でできた。
3	声掛けにより、安否確認ができた世帯が80%に達した。
4	安否札がなくても代用品で掲出があった。定着してきた。
5	訓練を忘れていた人に対し、声掛けによる訓練参加を促せた。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（2）安否確認訓練について（反省や課題等）

No.	反省や課題等
1	声掛け安否確認の周知がうまくできず、今回は集計できなかった。
2	自治会未加入者を含めた安否確認訓練のあり方を検討する必要あり。
3	安否札等集計用紙の書き方が分かり辛かった。 集計にも時間を要した。
4	報告場所や集合時間の間違いがあった。
5	サイレンの音が聴こえず、中止と勘違いした方がみえた。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（3）自ら避難が困難な住民の避難行動支援訓練について（良かった点）

No.	良かった点
1	消防分団の協力により担架搬送訓練を実施できた。
2	安否確認帳で要支援者の有無を点検・確認して、非常時の対応について協議した。
3	要介護者の避難を想定し、階段避難車の扱い方・実施訓練を自主防災リーダーを中心に実施した。使用方法について全員理解し、課題もわかったため、来年度につなげていく。
4	民生委員と連携し、各民生委員が自分が担当する要支援者から5名ずつリストアップし、電話や訪問等で安否確認を行った。
5	地域で避難困難者のリストを作成、町内会長・組長が保管しているので、避難困難者も分かっており、声掛け確認が重要であった。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（４）自ら避難が困難な住民の避難行動支援訓練について（反省や課題等）

No.	反省や課題等
1	要介護者の支援訓練があまりできなかった。
2	今回は実施しなかった。※ 複数連区あり
3	支援者や本人が高齢化の傾向にあり、非常時にはエリアを広げた支援活動を加えることを検討するべき。
4	避難行動要支援者（市、民生委員が把握）の情報共有について
5	避難困難者はリストで分かっているが、なかなか訓練には参加してもらえない。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（5）避難所開設・運営訓練について（良かった点）

No.	良かった点
1	コロナ禍以前の様々な訓練を実施することができた。
2	災害物資倉庫の内容等が一目でわかるよう備品の写真/取扱い解説/仕様/検索しやすいナンバリングを付けたリストを作成したので避難所開設時に必要な物資の在り処が防災委員に伝わり、比較的スムーズに開設できた。
3	応急トイレ（凝固剤タイプ）の使用訓練を実施、避難所におけるトイレ対策の重要性とともに、各家庭での備えの大切さを啓発した。
4	各班で役割分担を行い、受入れまでのシミュレーションができた。
5	事前打合せにより各自が役割を把握しており、円滑に訓練ができた。

6 訓練後アンケート結果（一部抜粋）

（6）避難所開設・運営訓練について（反省や課題等）

No.	反省や課題等
1	備蓄資機材の取扱い訓練に留まり、本来行うべき実践的な避難者の受入訓練等には至っていない。よりシリアスな避難所開設・運営訓練を実施していく必要がある。
2	役割等戸惑うところがあったため、今回のことを足掛かりにしっかりとしたマニュアルを作成していきたい。
3	自主防災リーダーの人材不足
4	避難所における掲示物（子どもや外国人等への配慮）
5	障害者等への対応、車中避難者への対応を訓練に含める必要がある。

今回実施した訓練で明らかとなった課題について、瀬戸市自治連合会（防火・防災部会）とも意見交換しながら、次年度の訓練を企画します。

7 災害対策本部運営訓練

訓練内容

災害対策本部運営室を本庁4階大会議室に設置し、災害発生時に想定される被害通報等の様々な情報に対し、災害対策本部の各部班が連携をとりつつ迅速で的確な判断を下す図上シミュレーション訓練を行いました。

成果

各連区の地域防災訓練に66名、本庁の災害対策本部運営訓練に109名の市職員が参加しました。
市民からの被害情報を記録する「災害受信票」の運用方法や、災害対応業務や各種情報を共有・発信するための「市町村防災支援システム」を迅速・的確に運用する点を意識して、実践的な訓練を行いました。



8 関係機関との連携

関係機関名	連携内容
(株)尾張東部放送	「RADIO SANQ (FM84.5MHz)」の特別番組放送による防災情報啓発
瀬戸旭医師会 (瀬戸旭在宅医療介護 連携推進協議会)	「瀬戸旭もーやっこネットワーク」を活用し、 医療的ケア児等の安否情報を共有する防災訓練
瀬戸アマチュア無線クラブ	アマチュア無線の通信訓練
防災協定締結ホテル	避難者受入のための連絡訓練
NTP名古屋トヨペット(株)	給電車の派遣による給電訓練 (陶原連区)
水無瀬中学校、三和紙工(株)	簡易給水槽の設置・給水訓練 (令和5年6月28日 水無瀬中学校にて実施)